

刊行によせて

新たな100年への第一歩

日本常民文化研究所は、2023年3月、横浜キャンパスの中に常民文化ミュージアムをオープンさせました。名実ともに、次なる100年に向けて第一歩を踏み出したと言ってよいでしょう。

創立100周年を迎えた2021年、日本常民文化研究所では次なる100年を見据え、将来構想を策定しました。その将来構想では、それまで研究所として担ってきた共同利用・共同研究の拠点としての機能をさらに増進するとともに、アチック・ミュージアム時代に立ち返り博物館機能を充実させることを大きな目的として掲げました。

そうした将来構想の一環として誕生したのが常民文化ミュージアムです。まず、日本常民文化研究所それ自体を博物館法第29条の規定に基づく博物館相当施設とし、その展示部門として常民文化ミュージアムを開設しました。1952年に博物館法が施行されて以来、日本において大学の付置研究所が博物館相当施設に認められたのは2例しかありません。

展示面積はわずか64平米と少ないけれども、その内容はこれまで日本常民文化研究所がおこなってきた100年に及ぶ研究の成果を具現するものです。完成に至るまでは紆余曲折があり、決して満足のいくものとはなっていませんが、まずはその完成をみなさんに報告したいと思います。

この常民文化ミュージアムの開設により、日本常民文化研究所は博物館機能を有する研究機関として、これまでにない新たな博物館型研究統合を目指すこととなります。共同研究などの研究成果を企画展示やワークショップといった博物館事業を通して広く社会に発信するとともに、学芸員養成など大学教育にも利活用してゆくこととなります。博物館型研究統合は、大学の付置研究所が博物館機能を有するからこそ可能となる研究と教育の融合であり、社会貢献のあり方であるといえましょう。

2024年2月

神奈川大学日本常民文化研究所所長
安室 知